

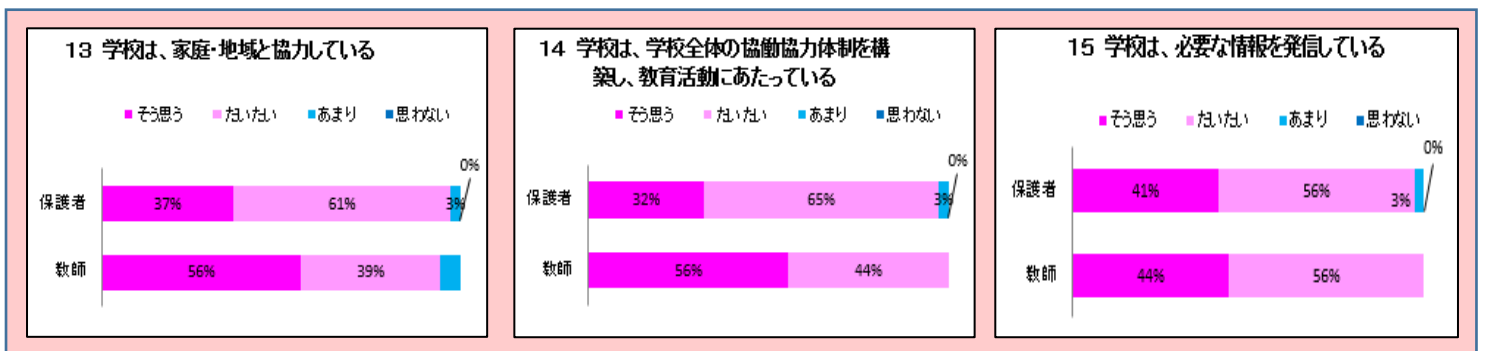
1 自己評価結果

① グランドデザインに基づいた取組に対するアンケート調査結果

学校教育目標「やさしく かしこく たくましく 生きる子」



家庭や地域と共に歩む「開かれた教育課程」に関わる評価



② 学校いじめ防止基本方針に基づく取組状況・目標に対する自己評価

ア 未然防止・早期発見への取組

- ・年間計画に基づき、朝会での校長の講話、「友情・信頼」「協力」「生命尊重」等をテーマとした考え、議論する道徳授業の実践、学級目標や学級内のルールについて子供たち自身が考える学級活動の実践、異学年児童が交流し合う縦割り活動の実践等を通して、自他の生命及び存在を認め合い、尊重し合う学校風土の醸成に取り組むことができた。
- ・年間計画に基づき、全児童を対象とした「先生あのねアンケート」「心面談」等を実施し、児童の心配事や悩みの把握に努め、未然防止・早期発見の一助とすることができた。
- ・年間計画に基づいた保護者との面談や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを交えての相談体制、気になる表れについての保護者との日常的な電話でのコミュニケーション等を通して、未然防止・早期発見の一助とすることができた。

イ 迅速かつ適切な情報共有や組織的な対応への取組

- ・毎月実施している「校内いじめ対策委員会」では、「浜松いじめ対応マニュアル」を活用し、教職員の資質向上のための研修を実施し、情報共有や組織的な対応に対する理解を深めることができた。
- ・毎月、全職員参加の「校内いじめ対策委員会」を実施し、校内におけるいじめの現状について共通理解を図ることができた。
- ・いじめを認知した場合には、速やかに「校内いじめ対策委員会」を開催し、対応策について協議し、迅速に対応することで、解消に向かうことができた。

2 分析・考察

学校評価アンケートは、令和3年度から令和5年度まで、質問項目の文言を変えずに回答率の変化を観察してきた。今回は、3年間の経年変化という視点で分析・考察した。

「2. 社会のルールを大切にしている」「3. 友達を思いやり、大切にしている」の2項目は、児童・保護者ともに肯定的な回答率が高水準で推移している。これらは、「考え議論する道徳の実践」を地道に積み重ねてきたことが要因の一つとして挙げられる。また、「縦割り活動」を本校の特色の一つと捉え、縦割り清掃や縦割り遊びを継続してきたこと、さらに今年度は授業の中や、昼休み等の自主的イベントでも異学年交流に積極的に取り組んできたこと等が有効であったと考える。「5. 共に学び合うことを楽しんでいる」「7. 校区に様々なよさがあることに気付いている」の2項目においても、肯定的な回答率の伸びが見られた。「5」については、研修主題に基づき、主体的、対話的で深い学びとなるような授業改善を進めていること、タブレット端末を積極的に活用することで互いの考えを交流する場面が増えていることが要因として挙げられる。

「7」については、学習活動「おいわけ」を中心としたキャリア教育の年間計画に基づき、地域を知るための学習活動に積極的に取り組んできたこと、学校運営協議会や学校支援コーディネーターとの連携の形が徐々に構築されてきたことの成果が表れてきているものと考えられる。

一方、「1. 進んで挨拶をしている」「4. 進んで読書している」「12. 運動・体を動かした遊びが習慣化されている」の3項目は、肯定的な回答率が下降気味である。「1」については、今年度、改善に取り組むべく代表委員会の議題として取り上げ、子供たちの創意工夫による「挨拶パンダ隊」の活動が始まった。こうした子供たちの自主的な活動を大切にしながら、今後、少しずつ成果を上げていきたい。「4」については、スマートフォンやタブレット端末などの情報機器に触れる機会が多くなっていること「12」については、運動場が校舎と離れているという地理的悪条件も影響しているものと考えられるが、そのような中でも成果が上がるような改善策

を検討していきたい。

「開かれた教育課程」に関わる評価は、3項目すべてにおいて肯定的な回答率が95%を超えていることから、いじめ防止基本方針に基づく取組内容も含め、学校の教育活動に対して、大多数の保護者が理解を示してくれていることが伺える。職員が、それぞれの立場で情熱をもって子供や保護者に接し、全力を挙げて職務に向かっている姿が直接的・間接的に保護者に伝わっているものと考えられる。

3 改善方策

- ・新しく「生活安全委員会」を立ち上げ、今年度発足した「あいさつパンダ隊」を生かしながら子供たち主体による挨拶を盛り上げるための常時活動に取り組む。「こんにちは」の挨拶は定着しつつあるので、今後は校内で会った学校外部の方にも進んで挨拶することができるよう、啓発を強化していく。
- ・今年度、浜松市立図書館の事業である「学習支援パック」の授業での活用が増えた。来年度も、読み物として読書に取り組むだけでなく、調べ学習の資料として図書を有効活用する場の設定を強化していく。また、年間でどれだけの本を読むことができたのかを個人記録表に残し、子供たち自身が読書量について常に振り返ることができるようにしていく。
- ・今年度は「ドッジボールラリー」の記録挑戦に学校全体で取り組んだ。2学期以降、昼休みのイベントとして記録会を定期的で開催することで、記録だけでなく技能の向上も見られた。活動が軌道に乗ってきたので、来年度は1学期から記録会を実施し、記録更新や技能向上を通して、運動することの楽しさ・心地よさを体感させていく。また、持久走記録会に向けても記録カードを早目に配付したこと、100周達成者を放送で紹介するようにしたこと、始業前や昼休み等に自主練習に取り組む姿が見られた。来年度もこれらを継続させていく。

4 学校関係者評価

2月19日に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

○挨拶については、学校評価アンケートの数値だけを見れば確かに低い。しかし、実際に学校に来たときや、校区内を歩いているときに子供たちに声掛けをすると、きちんと挨拶が返ってくる。今後も自信をもって教育活動に取り組んでほしい。

○地域の消防団に学習に協力してもらったことは、子供たちにとって大変意義のあるものになったと思う。実感を伴った学習活動こそ子供たちの印象に残り、知識も定着していく。

○読書量が減ってきていることの改善策として、学習支援パックを活用していることは、インターネットばかりに頼らず、多様な調べ方があることを学ぶ上でも有効であると考えられる。

○5年生が行った城北小との交流活動は、単学級の本校の子供たちにとっては大変意義深いものになったと思う。競い合う相手がいることで向上心も芽生える。城北小の新しい友達ができることは、安心して中学校へ進学することにもつながる。継続させてほしい。

○持久走カード100周達成者を放送で紹介したことは、子供の自尊感情を高めるためにも有効であったと考える。みんなに認められることが、次への意欲を掻き立てることになる。

○ドッジボールラリーへの取組は、投力を高めることはもちろん、受け取る相手のことも考えながら投げ合うという点で、思いやりを育てることにもつながっているのではないかと考える。

○いじめ防止対策を含め、全体としてとてもよい取組ができている。自己評価の分析や改善策についても、とてもよく考えられている。継続してほしい。

5 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- 子供たちの人間関係の幅を広げたり、多様な考え方や価値観にふれたりする場・機会としてこれまで継続してきた縦割り活動や学習での地域人材の活用に加え、城北小との交流活動、北部中との交流活動、「体力アップコンテストしずおか」への参加を通しての他校との競い合いなど、目先を学校外部にも向けられるようにする。
- 子供たちが実感を伴いながら学びを深めることができるよう、引き続き地域人材や地域素材、各種講座等を積極的に活用していく。また、授業終末や活動後に行う振り返りを重視していく。
- 引き続きいじめ未然防止への取組を重視し、自他の生命及び存在を認め合い、尊重し合う学校風土の醸成に取り組む。
- 令和3年度から令和5年度にかけては、学校評価アンケートの質問項目を変えずに経年変化を追ってきた。来年度は、質問項目を再検討し、的確な実態把握に努めていく。また、アンケート調査の数値のみに捉われないこと、子供たちの生の姿をしっかりと見取りながら、適切な支援を講じていく。